

公共屋内プールにおけるサービス事業調査

伊藤 満 (Mitsuru Itoh) 国際武道大学大学院武道・スポーツ研究科
土居陽治郎 (Youjirou Doi) 国際武道大学体育学部
猪股 俊二 (Shunnji Inomata) 国際武道大学体育学部

〔要旨〕

公共屋内プールにおけるサービス事業の現状を調査することにより、今後の課題を検討した。今回はプログラムを中心に、地域スポーツの観点から地方都市の代表として群馬県前橋市の公共屋内プール、民間スイミングクラブを取り上げた。前橋市公共屋内プールプログラムは全体的に一般成人向けのプログラムが数多くあり、ショートプログラムで初心者を中心とするものが主体となっていた。前橋市民間スイミングクラブプログラムはやはり、継続的プログラムで学齢期対象としたプログラムが大半の施設で行われていたが、アクアピクスは公共、民間共に広がりを見せていた。公共屋内プールにおけるプログラムの全国的傾向としては、2/3の施設で一般成人向けプログラムが行われていた。児童生徒対象のプログラムについては半数以下の施設でしか行われていなかった。

しかし、公共屋内プールにおけるプログラム数が増えれば良いとは一概に言えず、民間スイミングクラブへの圧迫に繋がることも考えられるため今後の検討課題と言える。

◆キーワード：公共屋内プール、サービス事業、水泳愛好者、プログラム

1. 目的

公共屋内プールは、近年急激に施設数が増加しており、文部省体育局発行の「我が国の体育・スポーツ施設」において、平成4年度の全国における公共屋内プール数は774箇所²⁾であったが、平成8年度には1625箇所³⁾まで増加してきている。文部省の諮問機関である保健体育審議会では、「21世紀に向けたスポーツ振興方策」を答申し、そのなかで各都道府県・市町村がスポーツ施設の計画的な整備を図るにあたっての参考となる「公共スポーツ施設の設備の方針」が示された。この中で、特に整備が期待されるのは、屋内プールである。なぜなら屋内プールは幼児から高齢者や障害者といった多様な利用者が期待できるだけでなく、通年型の健康増進施設として優れているからである。

そこで本研究は、公共屋内プールにおけるサービス事業の問題点・改善点を提示し、今後公共屋内プールに求められるサービス事業を検討することを目的とした。

2. 方法

公共屋内プールにかぎらず公共スポーツ施設は、地方財政の保健体育費と密接に関係している。そして、この保健体育費が地方財政の歳出総額から占める割合が、関東近郊で高い県は群馬県であった(1.5%)。今回はこの群馬県の県庁所在地である前橋市に取り上げた。群馬県前橋市内には5箇所の公共屋内プールが設置されている。さらに前橋市内には、民間スイミングクラブも9箇所と合計14箇所の屋内プールが前橋市内にあり、人口約28万人の地方都市としては、比較的に数多く設置してあると言える。そこで、前橋市の公共屋内プール、民間スイミングクラブでの面接調査を行った。さらに、公共屋内プールプログラム全国的傾向の把握のため、任意に抽出した156箇所の公共屋内プールの施設案内やプログラムサービスなどの調査を行った。

今回は、

- ・前橋市公共屋内プール、民間スイミングクラブにおける平成9年度年間利用者
- ・前橋市公共屋内プール、民間スイミングクラブプログラム
- ・公共屋内プールプログラムの全国的傾向
- ・公共屋内プールプログラムにおける全国的傾向か

らの前橋市公共屋内プールプログラムの位置づけに焦点を当てた。

3. 前橋市公共屋内プール平成9年度年間利用者数

前橋市公共屋内プール、民間スイミングクラブの設置場所と平成9年度年間利用者数を図1に示した。公共屋内プールの設置場所を●点で、民間スイミングクラブの設置場所を■点で表した。前橋市内は12の地区に分かれているが公共・民間共に人口密度が高い地区に集中しており、1つの地区に7箇所の屋内プールが集中して設置あることからこのことが読み取れる。前橋市公共屋内プールの中で圧倒的に年間利用者数が多いD施設は、市内唯一の屋内レジャー型プールで流水プール、スライダー等合計5つのプールを完備している。そして、B、C、E施設は屋内25m6コースのプールであるが、B、C施設はフィットネススタジオ、トレーニングルーム等の付帯施設も完備しているため幅広く利用されていた。

C施設よりもE施設が、年間利用者数が多い要因はE施設周辺に屋内プールがないため利用者が集中していると推測される。A施設は県立の屋内50mプールだが、トレーニングルームも完備しているが狭く利用者が少ないため年間利用者数はB施設よりも下まわっていた。

4. 前橋市民間スイミングクラブ平成9年度年間利用者数

前橋市民間スイミングクラブのH9年度年間利用者数では、R、S施設の年間利用者数が少ないが、2つの施設とも幼稚園の付帯施設のため午後の限られた時間でしか利用できない等が推測される。そしてV、W、X施設の3つの施設は市内でも特に隣接しており、会員確保の激戦区と言える。V、X施設はフィットネスクラブでプールの補かにエアロビクススタジオ、スカッシュコート、ゴルフレンジ、多目的ストレッチアリーナ等様々な付帯施設を持ち、総合施設として様々な人に利用されていた。さらに、X

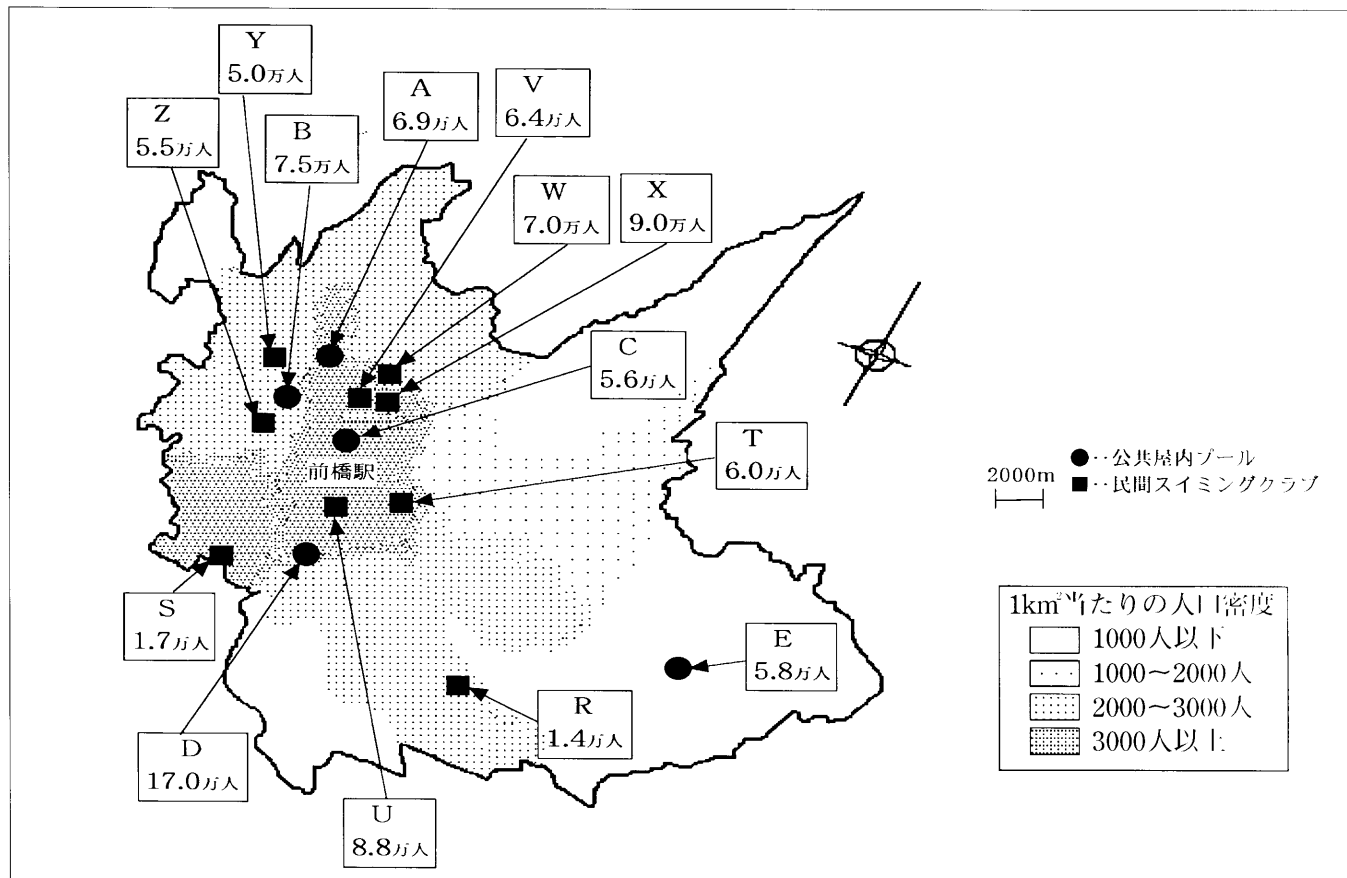


図1 前橋市公共屋内プール・民間スイミングクラブ 分布地図&平成9年度年間利用者数

施設には25m6コースのプールが2つあり、プログラム等によって使い分けがされていた。このことも、年間利用者数の増加につながっていると思われる。そして、W施設も施設を新築し、他の施設と差別化をはかろうとしていた。同じくU施設も更衣室を成人用と小学生用に改築して分けて、利用しやすいようにしていた。このように会員確保のため各施設とも特色を出そうとしていたが、現在は試行錯誤の段階と言える。そして、民間スイミングクラブよりも年間利用者数が多い公共屋内プールもあり、民間スイミングクラブから公共屋内プールへ流れる利用者も増えてきている。以前なら「公共屋内プール=サービスの劣悪、施設の不備」といった点が指摘されたが、施設設備の改善あるいは民間スイミングクラブ等に運営委託するケースも目立つようになってきたためであると思われる^{4),5),7)}。

5. 前橋市公共屋内プールプログラム

公共屋内プールは一般開放利用が主体であるが、それ以外の前橋市公共屋内プールと民間スイミングクラブのプログラム内容を纏め、比較を表1に示した。カッコ内は同じプログラム名での種類の数を表している。前橋市公共屋内プールは全体的に、一般成人を対象としたプログラムにウエイトが置かれていた。そして、屋内50mプールのA施設は、施設設備を活かしシンクロナイズドスイミング、飛込といった競技的プログラムも含まれていた。このように特色あるプログラムも行われているが、中学生、高校生を対象としたプログラムがなく、乳幼児、幼児、小学生を対象にしたプログラムも数少ない。D施設は、プログラムを2種類しか行われていなかったが、市内唯一のレジャー型プールのため年間利用者数は他の施設より群を抜いていた。これは、利用者がプログラムの魅力よりも施設設備を重要視しているためと思われる。しかし、これも一概には言えず、各施設ともプログラムを行なうと定員オーバーするこ

表1 前橋市公共屋内プール・民間スイミングクラブプログラム

前橋市公共屋内プール						前橋市民間スイミングクラブ										
対象	プログラム名/施設名	A	B	C	D	E	プログラム名/施設名	R	S	Z	Y	T	U	X	W	V
乳幼児 幼 児	親子	●	●	●		●	親子				■	■	■	■	■	■
	幼児		●	●(3)		●	幼児	■		■	■	■	■	■	■	■
	水慣れ			●			水慣れ									
学 童 生 徒	小学生		●			●	小学生	■		■	■	■	■	■	■	■
	小学生上級		●			●	小学生上級	■		■	■	■	■	■	■	■
	日曜コース						日曜コース							■		
	中学生						中学生						■		■	■
	選手						選手				■	■	■	■	■	■
一 般 成 人	水慣れ		●(2)			●(3)	水慣れ				■	■			■	■
	成人						成人				■	■			■	■
	マスターズ						マスターズ			■		■	■			
	健康水泳	●		●(3)			健康水泳									
	勤労者		●			●	勤労者									
	肩こり・腰痛					●	肩こり・腰痛					■				
	アクアビクス	●	●	●(2)		●	アクアビクス			■		■	■	■	■	■
	遊友エクササイズ			●			遊友エクササイズ									
	アクアシェイブ			●(2)			アクアシェイブ									
	流水コース			●			流水コース						■			
	アクアトレーニング						アクアトレーニング								■	
	健康温水プール浴		●			●(2)	健康温水プール浴									
	20分間ウォーク			●			20分間ウォーク									
シンクロナイズドスイミング	●					シンクロナイズドスイミング										
飛込	●					飛込										
女 性	レディース(婦人水泳)	●(2)	●				レディース(婦人水泳)		■				■	■		■
	マタニティ						マタニティ				■	■	■	■		■
高齢者	高齢者	●	●		●	高齢者				■	■					
障害者	成人身体障害						成人身体障害				■					

ともあり、プログラムに対してもニーズは高い傾向がみられた。

6. 前橋市民間スイミングクラブプログラム

そして、前橋市民間スイミングクラブプログラムはR、S2つの施設とも幼稚園の付帯施設のためプログラム種類が少なくなっていた。民間スイミングクラブはやはり乳幼児、幼児、小学生を対象とした学童生徒向けのプログラムが多く行われていた。これは、地方都市では一般成人主体の施設が浸透していないため、学童生徒を主体としなければ採算がとれず運営していくことが難しいこと等が推測される。そのため一般成人を対象とした生涯スポーツ的なプログラムまでは手が回らず、どの施設も模索の段階のため、施設によってばらつきがみられた。しかし、アクアピクスだけは公共、民間ともに広がりを見せていた。そして、腰痛、身体障害者等の医療福祉に関係したプログラムは公共、民間共に行なっている施設が少なかった。学齢期を対象にしたプログラムの大部分は民間に多く、その他のプログラムは公共、民間共に行われていた。そして、プログラム名が公共、民間共に同じだとしても、公共はプログラム回数が決められているため、初心者を対象としていたものが中心であった。このことは、公共はプログラムの指導者数が民間に対し少なく、プログラム開発も民間ほど進んでいないため、継続的にプログラムを行う環境整備が十分でないものと推測される。

7. 前橋市公共屋内プールプログラム対象別数

前橋市の公共屋内プールにおけるプログラム数を数字に置き換え、対象別のプログラム数を表2に示した。今回は乳幼児、学童生徒、一般成人、女性、高齢者を対象としたプログラムに焦点を当てた。この中で、対象別にみて全てのプログラムを行っている施設はB施設で、そしてE施設も女性向けのプログラムは行われていないが、それ以外のプログラムは比較的行われていた。A施設もE施設ほど数多くはないが、学童生徒向け以外のプログラムは全て行われていた。C施設はプログラム数では、B施設の11種類よりも多く、この前橋市内の公共屋内プールの中では一番多い14種類であるが、一般成人向け、乳幼児向けに集中しており、他のプログラムはま

たく行われていなかった。D施設は、レジャー型プールのためプログラムを行うことは、ハード面からして難しいが、一般成人向け、高齢者向け1種類づつプログラムを行っていた。

表2 前橋市公共屋内プールプログラム

対象 \ 施設名	A	B	C	D	E	全国平均
乳幼児	1	2	5	0	2	0.36
学童生徒	0	2	0	0	2	0.71
一般成人	2	5	9	1	6	1.51
女性	2	1	0	0	0	0.43
高齢者	1	1	0	1	1	0.22

※・屋内50mプール…A施設 ・屋内25mプール…B、C、E施設
・屋内レジャー型プール…D施設
・フィットネススタジオ、トレーニングルーム等の
付帯施設完備…A、B、C施設 ・付帯施設不備…D、E施設

8. 公共屋内プールプログラムの全国的傾向

公共屋内プールの対象別プログラムサービスの有無を表3に示した。今回は前橋市公共屋内プールと同じく乳幼児、学童生徒、一般成人、女性、高齢者を対象としたプログラムに焦点を当てた。156箇所の公共屋内プールのプログラム調査結果を纏めると一般成人向けのプログラム数が236種類と他の対象としたプログラム数より群を抜いて多く、156箇所の内108箇所と全体の2/3の公共屋内プールで行われていた。1施設平均1.51種類と平均すれば各施設に必ず一般成人向けのプログラムは1種類あるということになる。そして、児童生徒向けのプログラム数は110種類と一般成人向けのプログラムの約半分となっており、プログラムを行っている施設数も65施設と半数以下となっていた。その他のプログラムは、まだまだ普及しているとはいいにくくさらなる普及が待たれる。

表3 公共屋内プールプログラムの全国的傾向

対象 \ 施設名	乳幼児	学童生徒	一般成人	女性	高齢者
プログラム数	56	110	236	67	34
プログラムを行っている施設数	45	65	108	51	30
プログラムを行っていない施設数	111	91	48	105	126
合計施設数	156	156	156	156	156
1施設平均プログラム数	0.36	0.71	1.51	0.43	0.22
S D	±0.57	±0.96	±1.46	±0.65	±0.38

9. 公共屋内プールプログラムにおける全国的傾向からの前橋市公共屋内プールプログラムの位置づけ

全国公共屋内プールにおける対象別平均プログラム数と比較し前橋市の各施設の対象別プログラム数がどの程度行われているか位置づけるために標準指数(Z得点)を出し、図2に示した。

$$Z = \frac{X - \mu}{SD}$$

X：個々の値

μ ：平均値

SD：標準偏差

表は全国プログラム平均値を0として、これを下回っていると0以下に表示されるようにした。前橋市A施設は児童生徒向けのプログラムを行っていないため、全国平均値を下回っているが、それ以外のプログラムは全国平均値を上回っており、この中でも女性向けのプログラムは全国平均値よりも、かなり高い値を示している。この施設は県内唯一の50m屋内プールであるが、施設規模から見ると、それほど多くのプログラムが行われているとは言にくい。これは、この施設は一般開放利用、水泳競技大会の施設提供等に重点を置いているためであると推

測される。

B施設は全てのプログラム数が全国平均値を上回っており、多様なプログラム構成がなされている施設と言える。対象別プログラムでは、乳幼児向けのプログラムが全国平均値よりも一番高い値を示している。女性向けのプログラムがもう少し行われていれば、さらにプログラム構成のバランスがよくなると思われる。

C施設は乳幼児向けと一般成人向けのプログラムしか行われていないが、この2つのプログラムとも全国平均値をかなり上回っている。バランス的にみると片寄ったプログラム構成であるが、この2つのプログラムの種類は豊富と言える。しかし、このC施設が設置ある地区は前橋市内すべての地区の中で65歳以上の老年人口の割合が1番多いにもかかわらず(21.7%)、高齢者向けのプログラムは行なわれていなかった。

D施設は高齢者向けプログラムと一般成人向けのプログラムを行っていたが、全国平均値を下回っていた。高齢者向けのプログラムのみ全国平均を上回っていたが、この施設はレジャー型プールのためプログラムを行うことが難しく、そうした施設としてできるプログラムを考案した結果と思われる。

E施設は、女性向けのプログラムは行っていない

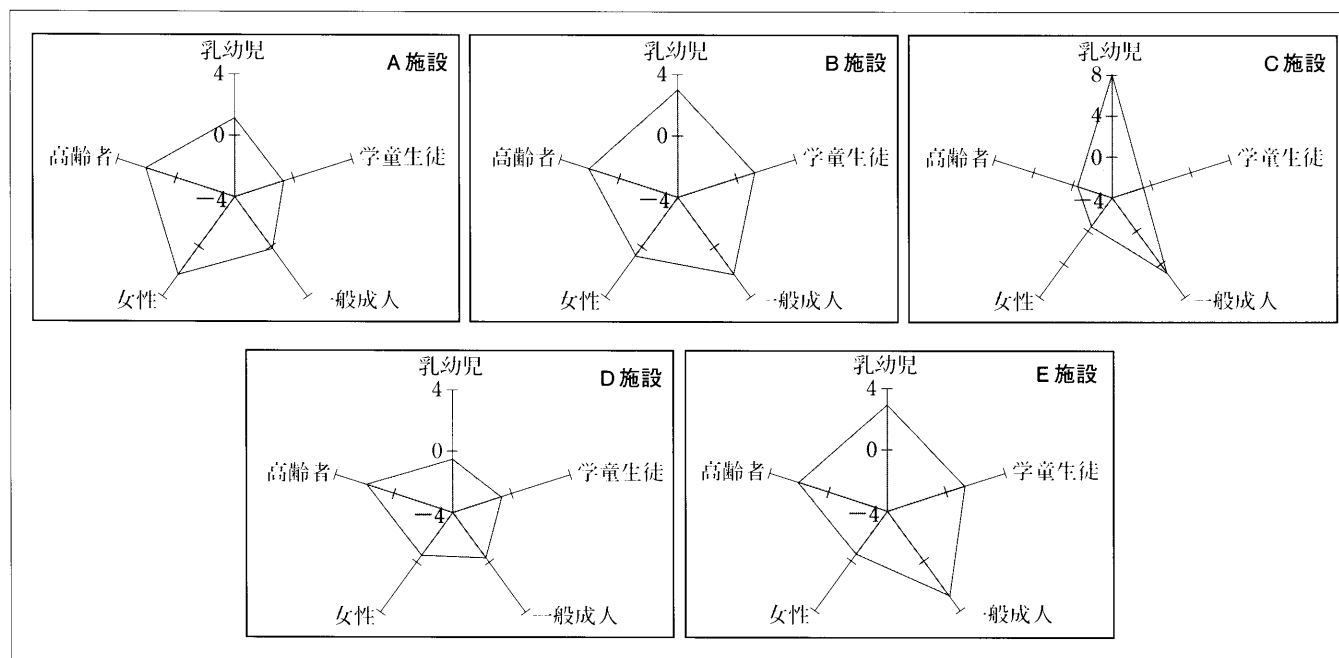


図2 公共屋内プールプログラムにおける前橋市公共屋内プールプログラムの位置づけ

が、それ以外のプログラムは、かなり高い値を示している。前橋市内の公共屋内プールでは、女性向けのプログラムを行っている施設は5箇所の内2箇所だけで、この2箇所で3種類のプログラムしか行われていないため、さらなる普及が待たれる。

10.まとめ

今回のプログラムの調査から前橋市公共屋内プールにおけるプログラムは、全国平均値から見て各施設とも比較的に多いプログラムが行われていた。しかし、公共屋内プールにおけるプログラム数が増えれば良いとは一概には言えることではない。公共屋内プールにおけるプログラム数が豊富になればなるほど、民間スイミングクラブへの圧迫に繋がることも考えられるため「民間スイミングクラブを圧迫せずに、どの程度のプログラム数、種類を行なえばいいか」等の棲み分けの確立が今後の課題と言える^{1),6)}。公共屋内プールの善し悪しは施設の設置目的、設置場所等により様々であり、一言では言うことはできないが、施設設備、プログラム内容、利用料金、利用時間、指導者等のトータルバランスであると思われる。このことは、地域住民のニーズ、要望を取り入れながら進めなければならない。それは公共スポーツ施設に限らず、公共施設は地域還元が原則だからである。

【参考文献】

- 1) 牧川優 (1997) レジャー産業資料5月号. (株)総合ユニコム : 東京, 61 - 66.
- 2) 文部省体育局 (1992) 我が国の体育・スポーツ施設 - 体育・スポーツ施設現況調査報告 -. 大蔵省印刷局 : 東京, 7.
- 3) 文部省体育局 (1998) 我が国の体育・スポーツ施設 - 体育・スポーツ施設現況調査報告 -. 大蔵省印刷局 : 東京, 6.
- 4) 長野茂 (1997) レジャー産業資料5月号. (株)総合ユニコム : 東京, 50 - 51.
- 5) 鈴木英久 (1997) 体育施設4月増刊号. (株)体育施設出版 : 東京, 6 - 13.
- 6) 山口泰夫 (1996) 健康スポーツの社会学. 青木高ほか編 建帛社 : 東京, 87 - 89.
- 7) 山崎利夫 (1994) フットネスマネジメント入門. サイエンティスト社 : 東京, 180.